

2021年7月2日

明石市工場緑地のあり方検討会 御中

地球 love 明石 代表 清 一 葉

要 望 書

私たちは、明石市で子育てをしている母親たちを中心に、子どもたちが笑顔でくらす持続可能な地球を未来につなげていこうという思いで活動している団体です。2020年12月議会では、「SDGs 未来都市に選ばれた明石市として持続可能なまちづくりを求める請願」を提出し、議会の賛成多数で採択いただきました。また、本年1月には、「経済優先ではなく、社会、環境にも配慮した方向性のとりまとめをしていただきたいこと」、「子育て世代の市民の意見も聞いていただきたいこと」、「しっかり時間をかけて丁寧で慎重な議論をお願いしたいこと」を明石市工場緑地のあり方検討会に要望させていただきました。

貴検討会において、私たちの要望書についてもご紹介いただき、議論を深めていただけたことや広報で市民の意見を広く聴くアンケートを実施していただくなどの工夫をしていただけたことは大変嬉しく、心より感謝申し上げます。私たちもアンケートに思いをたくさん書かせていただきました。また、私たちの方でも、今後、明石市はどのような方向に進んでいけばよいか、考える場を持ちました。その中で、もし、工場の緑地率が少しでも緩和することになるのであれば、緩和によって失われる緑を補う必要があることや補う方法として、明石市に唯一残された大久保北部の里山を市民、行政、企業で守っていくことも考えていただきたいとの意見が多くでました。

コロナ後の社会は「グリーンリカバリー」（環境に配慮した経済回復を進め、より持続可能な未来を築く）と言われていています。大久保北部の松陰新田一帯の里山には多くの貴重な生物が生息、生育しており、明石市レッドリストに掲載されている種の約4分の1（67種）が確認されているそうです。密集した市街地から目と鼻の先にこのような自然豊かな緑地ゾーンがあることは、私たち市民の誇りです。雑木林やため池、起伏のあるこの豊かな丘陵地について、ぜひ、緩和を補う場所として、自然を生かした活用方法を考えていただきたいと思います。ぜひ、SDGs 未来都市明石の象徴として、市民、行政、企業が力を合わせて、明石市の大切な緑を守っていくことも考えていただけないでしょうか。

私たちが届けた声が工場緑地の今後のあり方に反映されることを願い、再度検討会の皆様に要望させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

